

ともに

「コープネットレポート」 創刊のごあいさつ

「CO・OP手作り餃子」での重大な中毒事故の発生により、健康被害を受けられた方々には、あらためて心よりおわびとお見舞いを申し上げます。さらに、全国の消費者の皆さまには大変なご迷惑やご心配をおかけし、また生産者の皆さまへも少なからぬ影響を及ぼしたことをおわび申し上げます。

何よりも食の安全を第一に取り組んできた生協で、今回の事故を防ぐことができなかったことについて重く受け止めております。高濃度の殺虫剤混入についての原因が究明されていない状況ではありますが、今回のような事態も想定し、品質管理を全面的に強化して再発防止に努め、食の分野における「もっとも信頼される存在」となるよう全力をあげてまいります。

コープネット事業連合は1都7県の生協でつづられています(下欄をご参照ください)。会員生協合計の組合員数は約340万人、2007年度の総事業高は約5,000億円となりました。理念である「CO・OP ともに はぐくむ 暮らしと未来」、

2015年ビジョンとして掲げている「食とくらしのパートナーとしてもっとも信頼される存在」を目指して、宅配、店舗を中心とした事業を会員生協とともに進め、団塊の世代とともに、若い世代の参加をもっと広げていきます。また、生協版食育「たべる、たいせつ」の取り組み、食品の安全性の確保や持続可能な食料生産にむけた取り組み、地球温暖化防止を中心とする環境保全の取り組み、地域のセーフティネットへの貢献など、消費者の期待に応えられるよう努力してまいります。

このレポートを読んでいただき、日ごろのコープネットと会員生協の取り組みを少しでもご理解いただければと願っています。



コープネット事業連合
理事長 赤松 光

Information

コープネットの紹介

正式名称は、「生活協同組合連合会コープネット事業連合」で、1992年に設立。いばらきコープ・とちぎコープ・コープぐんま・ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょう・コープながの・市民生協にいがた、の8つの会員生協およびコープネット子会社で構成する生協の連合会です。

将来にわたる健全経営、また組合員・消費者のくらしに貢献する組織であり続けるため、各生協の力を結集しました。商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、共同購入・店舗・サービス事業などのチェーン本部機能を共同で作りに上げています。

コープネット事業連合と会員生協・子会社は、「コープネットグループ」として同じ理念・ビジョンを掲げています。



2007年度概況(会員生協合計)

事業高	組合員数	出資金	店舗数	宅配センター数	職員数 正規職員	パート職員
5,093.6億円 (累計・一次決算)	342.1万人	987.8億円	185店舗	123カ所	4,673名	18,447名

※2008年3月20日現在



コープネット

検索

<http://www.coopnet.jp/>

発行 2008年5月3日 コープネット事業連合広報・ネットワーク 〒336-18526 埼玉県さいたま市南区根岸1丁目4番13号 TEL 048(839)1849

CO-OP
コープネット

コープネットグループ理念 CO-OP ともに はぐくむ 暮らしと未来

コープネット レポート



JAと提携し、農業の活性化を推進

「CO・OP 手作り餃子」各地でタウンミーティングを開催 ほか



ちばコープ

「きやっせ物産展2008」(3月23日 幕張メッセ)
組合員出展ゾーンでは、手芸・工作の体験コーナー、作品の販売など、組合員のバラエティにとんだ活動内容を紹介しました。

ちばコープ「きやっせ物産展2008」に2万人

3月23日、「きやっせ物産展2008」（主催：ちばコープ、後援：千葉県、農林水産省関東農政局千葉農政事務所、bayfm78）が幕張メッセ（千葉県）で開催されました。

千葉県産の農林水産物のPRや販売、食育や子育て、環境、地域安全活動などのお知らせ、また、お取引先・産地と組合員、地域住民の交流の場として毎年開かれ、今年で15回目になります。昨年を上回る約2万人が訪れ、お取引先154社にご協力いただいた物産展や子どもたちに人気の「炎神戦隊ゴーオンジャー」のショーなど、家族連れでにぎわいました。

また会場では、JA全農ちば、ちばコープ、コープネット三者による協同組合間提携が発表され、併せて、農産物を供給していただいている千葉県内の3つの産地に、ちばコープから感謝状をお贈りしました。



▶左から、加藤勝千葉県農林水産部部長、海保行雄JA全農ちば県本部長、赤松光コープネット理事長、あいさつをする田井修司ちばコープ理事長

JAと提携し、農業の活性化を推進 JA全農いばらき・いばらきコープ・コープネット

協同組合組織の発展と、互いの事業協力の拡大を目的とした協同組合間提携の調印式が3月3日、水戸市内のホテルで行われました。

2006年12月にはコープながの、今年6月にはちばコープでも同様の提携を結び、さらなる国産農産物の生産・消費の活性化を推進します。



▶左から、柴田誠JA全農いばらき県本部長、佐藤洋一いばらきコープ理事長、赤松光コープネット理事長

協同組合間提携による取り組み内容

1. 「安全で安心できる新鮮な農畜産物の生産流通と消費の拡大」を積極的に推進します。
2. 協同組合として組合員の生活と健康を守るとともに、地域社会の活性化と地域農業の振興を図り、社会への貢献、自給力の向上を目指します。
3. 互いの活動の強化発展を図るため、情報交換と交流を活発に行い、事業基盤の強化に努めます。
4. 消費者と生産者との産地交流・学習会・農業体験・食育活動などを積極的に進め、各地区で開催するフェスタなどのイベント活動を合同で開催します。

「CO・OP手作り餃子」重大中毒事故について、各地でタウンミーティングをすすめています

コープネットグループの会員生協は、組合員・消費者からさらに多くのご意見をいただくことを目的に、タウンミーティング（報告・意見交換会）を開催しています。

【主なご意見】

- 「コープで買えば安心だと思って利用し、友人にも勧めてきたのに、信頼を裏切られてとてもショックです」
- 「安心して利用できるように検査状況などもきちんと説明してほしいです」
- 「『便利に買い物できるしくみ』のコープだけではなく、食品を軸とした『日本の将来を支え、育てていく仕組み』になってほしいと思います」
- 「自給率を改善していくために、消費者自身の食生活を考え直す工夫も必要ではないでしょうか」

意見交換会は、5月までに6会員生協で45回開催されます。また、各会員生協で行われる地域別総代会議（組合員の代表が集まる会議）でもご意見をいただいています。



▲参加者の皆さまからいただいたご意見を厳粛に受け止め、今後の対策に反映させていただきます（4月9日 コープとうきょう報告・意見交換会）

地域社会と協力し、 店舗でマイバック持参率90%

コープネットグループではCO₂を削減するために地球温暖化防止自主行動計画を策定し、レジ袋の削減に取り組んでいます。

2007年1月からは、一部店舗で行政や他団体と協力しながらレジ袋の有料化実験（1枚5円）を実施し、コープとうきょうの実験店舗ではマイバック持参率90%以上という大きな成果をあげました。

いばらきコープでは2007年11月、コープぐんまでは2008年2月に行政とレジ袋削減に関する協定を結びました。また、レジ袋の収益金は、地球温暖化防止対策や環境保全の取り組みに役立てています。

コープネットグループでは、今後もマイバックの持参を推進してレジ袋を削減し、ごみの減量や資源の有効活用など、環境に配慮した活動に組合員とともに取り組んでいきます。



▶2007年度は、約5,725万枚のレジ袋を削減することができました